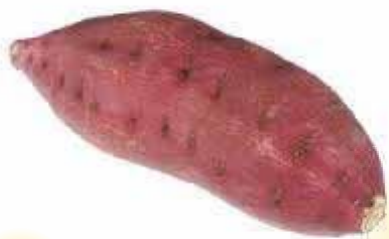


彩菜栽

2016年
11月

サツマイモの 上手な収穫と貯蔵法



初夏から盛夏にかけて盛んにつるを伸ばしてきたサツマイモは、やがて収穫の時期を迎えます。芋の肥大経過をたどってみると、通常8〜9月には半数以上が50g以上にのび、その後急生長し10月中旬〜11月に入ると肥大は緩やかになります。霜が降りるころまで少しずつ太り続けます。

自家菜園では必要に応じて探り掘

り(株元に手を差し込み、適当に肥った芋だけを収穫する)をしましょう。

本格的な収穫の適期は、11月で、肌寒さを感じ、初霜も近くなった頃です。初霜が降りると若い葉が枯れるので、すぐ分かります。何回か降霜に遭い、多くの葉が黒く枯れ上がった後待たないで、急いで全部掘り上げてください。収穫日はできるだけ畑が乾いていた方が芋のためにも作業

のしやすさのためにも好都合です。収穫の手順は、まずつるの株元部分

【探り掘り】



【本収穫】



(1) つるを刈り取る



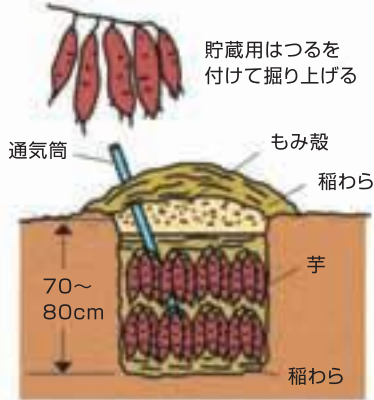
(2) くわを大きく打ち込んで芋を掘り上げる

を探り出し、地際のつるを地上4〜5cm残し、鎌で刈り取ります。刈り取ったつるを畑の外へ運び出し、畝を丸裸にし、マルチフィルムを剥がしてから、芋を傷つけないよう注意して株元に大きくくわを打ち込み、芋全部を掘り出します。

その際注意すべきことは、つるは強大で大きく絡み合っているので、畑の中で50〜60cmほどの長さに鎌で切り分けて、畑から運びだしやすくしておくことです。また、掘り取る際に、貯蔵予定の芋は、つるから外さないよう注意して扱い、容器に入れて丁寧に持ち運ぶようにしましょう。

刈り取った大量のつるは、畑の隅などに推積して乾かしておきます。このつるは堆肥材料としてもよく、

【貯蔵】



特に来春のトマトなど果菜類の元肥溝に、粗大堆肥材料として施すと、大きな役割を果たしてくれます。

貯蔵方法は、水はけの良い場所を選び図のように深さ70〜80cmの穴を掘り、底の部分に稲わらを敷き、つるの付いたままの芋を傷つけないよう丁寧に重ね入れます。収め終わったら上にも稲わら、もみ殻を覆います。貯蔵の適温は13度、湿度は90%が目安です。

少量の貯蔵なら、芋を新聞紙にくるんで、保湿性の高い発泡スチロールの箱に入れ、室内の冷暗所に置くだけで十分です。